

友の会だより

vol. 43
2022 冬号

—— 友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌 ——



すずき出版発行「心のうたかれんだあ」(平成12年版)より 詩／坂村真民「夕空」 画／海野阿育

坂村家のアルバム

vol.13

地元に愛された畫圖湖の唄と新参先生

大平式 気笛吹込

TAIHEI 産國純

4096-B

流行歌
ブルース

坂村真民詩
河口清喜曲

畫圖湖の唄

畫圖湖繪のよな 春がすみ
堤ざくらの 花咲いて
屋形船 屋形船に花が散る
船は棹舟 さらさらと
東しやお阿蘇の 火の煙
西の金峰にや 月しづむ

浮ぶ繪日傘 来る日傘
かへるボートにゆくボート
波に夕陽が あかあかと

川島信子
伴奏
タイヘイダクション
オーケストラ

社會式株器音蓄平太



真民が作詞をしたタイヘイレコード盤「畫圖湖の唄」(昭和6年発売)

今号の掲載詩を読まれて、皆さんは「アレッ！」と思われたことでしょう。紹介の歌詞は、父・真民(この頃はまたみと読む)が作詞したレコード盤に載るもので、当時は民謡歌謡と呼

ばれていました。写真は、坂村真民記念館に展示しているレコード盤・畫圖湖の唄(昭和6年発売)を写したものです。

さて昭和6年、真民は神宮皇學館本科国語漢文科を卒業しました。卒業論文に「韻律論」を書き、その一部は川田順氏の著書「利玄と憲吉」に収められたとの事。「大学は出たけれど」という流行語が示すように、失業者があふれた時代でした。師範学校・中学校・高等女子学校の修身科と国語科と漢文科の教師免許を持っていたても職が無く、九州に帰り熊本市の画図小学校の代用教員になりました。一方で「九州民謡協会」主宰の藤渕忠一氏と親しくなり民謡歌謡を作り始め、ここに「畫圖湖の唄」の誕生となるのです。こうしてしばらくは、民謡歌謡に熱中することになります。

新参先生として、小さい子供相手の愉快な明け暮れであったようです。そこで、神様の学校(神社の宮司を育てる機関)を卒業したことから、「神様」という綽名を初めて貰いました。また先生達の中で俸給が一番少ないため、生活面でもお酒を飲ませてくれたり芝居にまで連れて行ってくれたと言う話です。いい方達に恵まれての

表紙の詩



2000. 1. 1. Shohko 詩 画

夕空
 ゆたしはいつもしとりながら
 あたたかいひとのこころにふれると
 ほろりとする。
 生きることがうしろしくなる。
 暮らしてつくことに力がある。
 今日あるはにこむと、静かなる夕の空のきれいなうらなこと
 近かじか虹まで大つてはなないか
 ああゆたしはもう
 野んももく欲もない
 九知しかに生きてゆきたい
 美しい人の美しい心はふやて
 こころみかさを生きてゆきたい

この詩は、真民が41から42歳の時に作られた詩です。真民詩の中でも、私は、特別純粹で、研ぎ澄まされた気持ちになれる詩ではないかと思ひます。夕空の中に虹が立つ情景は、そうでなくても感傷的になりがちですが、あたたかい人の心に触れて、心が温かくなってその人と別れて帰って来る時、そういう情景に出会ったとしたら、ああ生きてよかったと思ったのでしょうか。

そういう気持ちを大切に、野心も欲も捨てて、静かに生きてゆきたいと思う真民の、本当に純粹で穢れのない気持ちが、素直な言葉で表現されている詩ではないでしょうか。

真民は「詩国92号」でこの詩は坂見富美子さんに捧げた詩であると書いています。結核療養所に入院されていた坂見さんをお見舞いに行った日の、真民の気持ちを詠った詩なのです。

敬虔なクリスチャンであった坂見さんとの交流は、真民にとっても特別なもので、こうした思いになったのでしょうか。坂見さんはその後全快され、幸せになられたと聞いています。

第一歩でした。

さて、画図湖と言っても想像ができませんね。

「夏になると」という真民詩のなかで、画図湖に触れています。一部を紹介しますと―夏になるとふるさと熊本画図湖が／浮かんでくる／画図湖は阿蘇に降った雨が地下にしみ／それが水前寺の湧き水となりここに流れ込み／絵のよ／うな湖となつてゐる／わたしは青春のせつない時代を／しばらくこの湖畔の里で過ごした―。

もうひとつ画図湖のお話を。これは、真民の弟さんのお言葉です。

―兄は、「画図湖はすばらしい、世にもっとその

よさを知って貰わねばならぬ」と画図湖の景色のよさを惜しんで口にしていました。「地元がやらないなら自分がやらなければならぬ」とも。世のため、人のためと思つて発奮行動していた精神がよく分かると思ひます。画図湖の唄は世評がよく地元も大歓迎でしたので兄はとても明るく喜んでいました。―

これまでの孤独が友であつたようなときを経て、22歳の真民に、こういう一面もあつたのかと、何かほつとする思いがしませんか。この地での代用教員生活は一年間で終わりを告げ、新任地での先生ぶりは次回に続きます。

文／西澤真美子



現在の江津湖(画図湖)

熊本市東区から中央区にある湖で、水生植物や魚類など豊富に生息し、都市の内部にありながら自然が残されている。1966年に湖周辺は水前寺江津湖公園として整備され、日本の都市公園100選の一つに選定されている。

真民先生の詩で多くの人を勇気づけたい

いよせき株式会社 社長 白木 秀典さん

坂村真民記念館の玄関前にある「念ずれば花ひらく」の詩碑を建立された白木秀典さん。真民詩のパワーをいろんな方に届けたいと、各地の寺や子どもの集まる学習塾などにも詩碑を建てる、念じて行動し続ける経営者だ。



平成5年 前神寺での入魂式にて

◆突然の訪問を笑顔で受け入れ

真民さんとの出会いは、かれこれ30年近く前、私が30代半ばのことだったでしょう。ある時、仙台から同じ石屋仲間の友人が遊びに来て、自然農法を実践されている福岡正信さんに会い、伊予市にある農園を訪ねるところになりました。

ところがこの日、福岡さんは不在。どうしようかと思案していたところ、ふと、伊予市に近い砥部町に坂村真民先生のお宅があることを思い出しました。

真民先生は、我々石の業界では有名な方です。しばしば経営者の勉強会などで、紹介されていましたので、お名前と詩だけは存じあげておりました。

住所を調べてお宅へ伺うと、真民先生はたまたまご在宅でした。そして、

見知らぬ若者二人を、快く招き入れてくださったのです。もしかすると、私たちが石を扱っているので、興味を持たれたのかもしれない。

真民先生は「石」がお好きで、「石」を題材にした詩もたくさんつくっておられます。ご自宅の部屋には、重信川の河原で拾ってこられたという石が置いてありました。先生は石の声を聞き、石と対話し、石からエネルギーを得ておられるように思いました。

真民先生は、気取らず、ざっくりばらんにいろんな話をしてくださいました。お話をしているうちに、私はすっかり真民先生の世界に魅了されたのです。

◆詩碑の建立をライフワークに

真民先生の詩「念ずれば花ひらく」を読むと、生きている実感がわき、勇気づけられます。この詩を大勢の方に見てもらいたい、幸い我が社には愛媛の代表的な自然石「伊予の青石」のストックがある。私は、青石で作った「念ずれば」の碑を、ぜひとも四国八十八ヶ所すべての霊場に建てたいと考えるようになりました。

とはいえ、勝手に建てるわけに

きませんので、お寺にお願いにあげます。中には、既に多くの碑が境内に立っている場所がないと言われることもありすが、いろんな方の力を借りながら、弊社の地元にある西条市の第64番札所・前神寺を皮切りに、なんとか9ヶ寺に建てることになりました。真民先生のもとには、札所の詩碑を見た方から手紙が届くこともあり、とても喜んでおられたそうです。

詩碑を建てる「入魂式」を行います。朝、真民先生をお迎えに行き、道中いろんな話をするのも楽しみでした。不思議なことに、入魂式はいつも晴れ。雨が降っていても、入魂式には上がり、空に虹がかかるのです。お祈りの力が届くのかもしれません。

私の座右の銘は「念ずれば花ひらく」と「継続は力なり」ですが、ある日、真民先生から「ただ念ずるだけではだめだよ、行動しないと花はひらかないんだよ」と言われました。この言葉は今の私の指針となっております。難しいこともありますが、今後もう少し詩碑の建立を続けていきたいと思えます。

表彰状ならびに感謝状

辛島 久代 殿

あなたは満十七の時 結婚をとりかわし十八歳で結婚し、貧しい家計をやりくりしながら時には祭禮の寄付金五十銭とないというような困窮をきりぬけ無能にして虚弱な夫を扶けて今日までやってこられました。その間の苦勞はここに一々とても数えあげることができないほどです。

あなたは明るくて素直で腹をたてることもなく、気短かで、頑固でものわがりの悪い夫によく和してこられました

あなたが側についていなかったら彼はどんな人間になっただかわかりません。きつとつまらぬ奴になつてしまったであります。彼が今日あるのは全くあなたのおかげだといつても過言ではありませんそんなわけで今日のこのお目出度い日にとくにあなたを表彰し、多々の勞苦に対して衷心から感謝の言葉を差上げたいと思います。

坂村 真民後援会

妻への感謝状

この「表彰状」は、昭和37年11月3日の「詩国日誌」(真民が毎日書いている日記)に書かれているものを、私が表彰状の様式に入れてみたものです。

この日の日記には、この後に「まあこんな式典もあっていいと思う。むろん彼女はそんな処やそんな表彰を好む彼女ではないことはわたしがよく知っている。知っているだけに表彰してやりたいのである。

ほんとに彼女がいなかったら、わたしなどどんな人間になっただかわからない。

とにかく彼女なしには私は存在できなかったということになる。私が文化勲章を授けようとするのはこの妻なのである。

ノートだけの表彰状ならびに感謝状に終ったことを妻よ許してくれ。

きょうは私の家の文化の日だ。ゆつくりみんなで楽しもう。」と書かれています。

残念ながら、この「表彰状」は妻には渡されていないのですが、その気持ちは十分伝わっていると思います。

この「表彰状」を含め、真民の妻への想いを、現在開催中の「坂村真民と家族の詩」展では、パネルや写真で大きく展示していますので、どうぞご来館ください。

開催中

「坂村真民と家族の詩」
妻と3人の娘と紡ぐ家族の物語

2023年2月26日(日)まで



「一遍さんと真民さん展」

開催期間 **2023年3月4日(土)～7月2日(日)** 月曜日休館(祝日の場合は翌日)

坂村真民記念館では、3月4日(土)から7月2日(日)までの会期で「一遍さんと真民さん展」を開催することとしました。

真民は、親しみを込めて「一遍さん」と呼び、庶民の中に生き続けた「一遍さん」を慕いつづけた生涯でした。今回の企画展では、坂村真民の生き方とそこから生まれた詩に、一遍さんの「生き方とその思想」がどのように影響を与えたのかを知るために、一遍さんの「人間としての生き方」を分かり易く多面的に解説し、一遍さんとはどんな人であったのか、なぜ、坂村真民が一遍上人の後を継ぐことを決心し、その生き方を「真民流の生き方」として貫いたのかを皆さんに知っていただきたいという思いで構成しています。

そして、一遍さんから坂村真民が引き継ぎ、厳しい生活の中で守ってきた「一遍さんの生き方」を、私たちが受け継ぎ未来に向かって歩む若い人たちに、どのように伝えていくことができるのかを考える特別展にしたいと思っています。

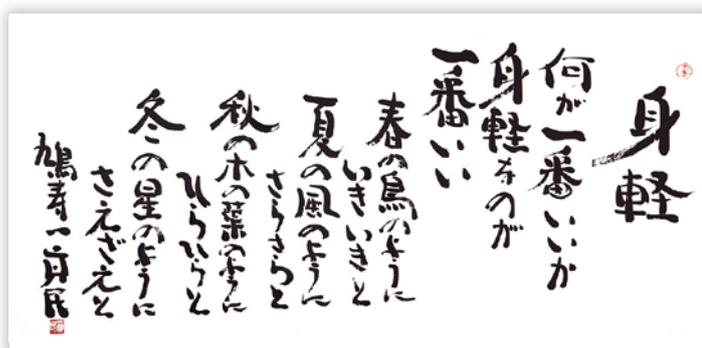
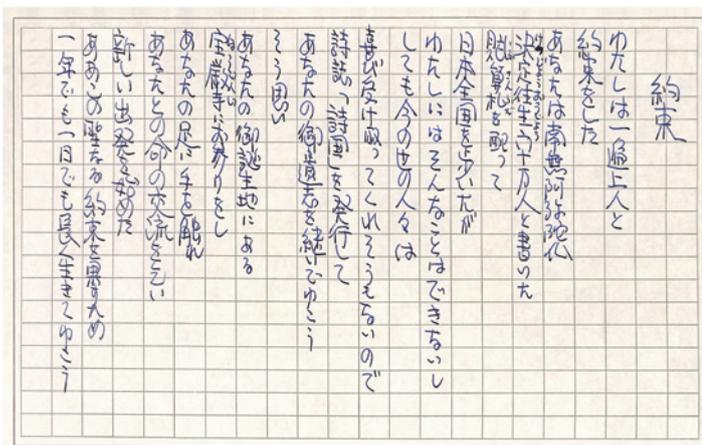
コロナ禍が収まらないこの日本において、私たちがこれから「どう生きてゆくか」を考える時に、多くの人に参考にしていただける特別展となっています。

また、愛媛で生まれ、愛媛で修行を重ね、全国を遊行して回られた一遍上人は、全国的な知名度に比べて、愛媛ではあまり知られていないのが現状です。

そのためにも、もっともっと地元愛媛から、「一遍上人」の素晴らしさを発信してゆく必要があると思います。



一遍上人立像(宝厳寺蔵:焼失)



坂村真民記念館を応援しています



ホテルクリオコート博多

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111

経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と
自分づくりをする



株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



介護付有料老人ホーム

To-be

全78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)



住宅型有料老人ホーム

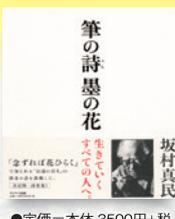
モンレーヴ砥部

全18居室/40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院西隣) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

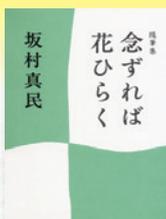
詩墨集
筆の詩墨の花



●定価=本体 3500円+税

坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!

随筆集
念ずれば花ひらく



●定価=本体 1800円+税

初めての
随筆集を復刻!

念ずれば花ひらく



10万部突破の
超ロングセラー!

いま届けたい、生き方の道しるべ

詩集
念ずれば花ひらく



詩集●定価=本体各1000円+税

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
<http://www.sunmark.co.jp>

詩集 二度とない人生だから



致知出版社 坂村真民シリーズ



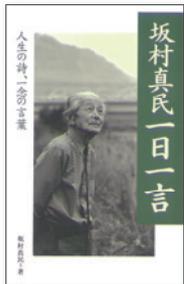
**全424頁、
豪華
座右版**

生涯1万篇以上といわれる
膨大な詩作の中から366の名詩を精選。
長年、真民詩に魅せられ人生を歩む道標としてきた
『致知』編集長が渾身の思いで編纂に当たりました。
心が弱った時、悲しみに直面した時、
ぜひ本書を紐解いていただき、
心の糧となる詩に出逢っていただければと願っています。

坂村真民 一日一詩

坂村真民=著 / 藤尾秀昭=編
定価=本体2,000円+税
四六判上製

人生で口ずさみたくなる
言葉が見つかる



坂村真民 一日一言
坂村真民=著
定価=本体1,143円+税
新書判

円覚寺派管長が選んだ
真民詩100選



坂村真民 詩集百選
坂村真民=著 / 横田南嶺=選
定価=本体1,300円+税
新書判

真民氏が自らを励まし、
勇気づけるために綴った87篇の詩



坂村真民 箴言詩集 天を仰いで
坂村真民=著 / 西澤孝一=編
定価=本体1,300円+税
四六判並製

月刊『致知』に掲載された
幻のインタビュー集



詩人の 颯声を聴く
坂村真民=著 / 藤尾秀昭=聞き手
定価=本体1,300円+税
B6変型判上製

ち ち しゅ っ ぱ ん し ゃ
致知出版社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-24-9
TEL.03-3796-2118 FAX.03-3796-2109

オンラインショップでも
ご購入できます!

致知オンライン 検索

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください

〈編集後記〉

坂村家には真民作詞のレコード盤が数枚、中には東海林太郎や渡辺はま子の歌による盤もありました。家族で聴いたのは私が小学校に上がる前まで、その後4回に及ぶ引越で記憶から消えていました。再会したのは56年後、父の古い本棚の一番下の引出し中で、その時を待っていたのです。(真美子)

タンポポだより vol.43 冬号

令和4年12月1日発行

発行元 / 坂村真民記念館友の会事務局

〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内

TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間 / 9~17時(入館は16時30分まで)

休館日 / 月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日~1月1日

入館料 / 65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、

小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり